薫泉（くんせん）

学校の目標
社会の変化に自ら対応でき、豊かな心をもち、表現力豊かな国際人を目指し、次のような子どもを育成する。
・よく考え、進んで学習する子ども
・いつも元気で、じょうぶな子ども
・こころ豊かで、やさしい子ども

ようこそ！矢口文化芸術劇場へ　心を大切に！
後悔のないように最後まで協力して演じ切ろう

（矢口文化劇場スローガン）

副校長　出口芳子

朝夕はぐっと涼しくなり、スポーツにも勉強にも、活動するには最適な実りの秋です。

九月九日(土)の学校公開・夏休み作品展では、お忙しい中のご来校、ありがとうございました。七百名以上の方々に本校の教育活動をご参観いただくことができました。同時に開催いたしました「体育・健康教育授業地区公開講座」では、六年生が「認知症サポーター養成講座」を受講し、認定証を取得しました。認知症に対する正しい知識と理解をもち、地域で認知症の人やその家族に対して手助けする「認知症サポーター」が増えることで、認知症になっても安心して暮らせるまちになります。認知症の人や家族を温かい目で見守る「応援者」としての活躍が期待されます。

更に、午後には、「矢口小ＰＴＡ夏祭り星空映画祭」が開催され、大盛況のうちに終了しました。中でも、商店街からの協力をいただいた「商店街にお買い物に行こう！」は、本校の研究テーマ「地域とともに生きる児童の育成」との関連を図った、子どもたちの学びを支える企画であり、実り多い一日でした。

さて、令和五年度は半分を過ぎ、十月からは委員会活動も後期に入ります。自分たちの学校生活を自分たちの手でより充実したものとなるよう高学年がリーダーとなって全校を引っ張っていってくれるものと思います。九月には、矢口小学校全校児童の九十三・八％が「おはようございます。」と、元気よく朝のあいさつをし、設定した目標を達成しました。これは、前期の計画委員会が挨拶運動に積極的に取り組んだ成果の一つです。二月十七日（土）道徳地区公開講座では、「あいさつ音楽劇」の鑑賞を予定しており、自信と誇りをもって「矢口小、あいさつ日本一」と大きな声で言えるようになることを目標に、子どもたちと共に継続して取り組んでまいります。

現在、学校では、十月六・七日に開催する矢口文化芸術劇場に向けての準備が始まり、校舎内では台本を手にした子どもたちの姿を目にするようになりました。いつの時代も大勢の前で劇や歌などの表現活動をするということは、とても勇気がいりますし、緊張で足が震え、声も出にくくなるものです。しかし、子どもたちはそれらを乗り切ることで、ひと回り成長するのです。「できた、やりきった、がんばり続けられた」といった充実感や満足感の中から、新たな自分の一面を発見することになるのです。学年みんなで一つの作品に取り組むのは苦労もありますが、達成したときの喜びはその分大きく、学年のまとまりが生まれます。保護者鑑賞日は一日のみですが、それまでの一連の活動全部が矢口文化芸術劇場です。保護者や地域の皆様には、ステージ上で子どもたち一人一人が輝く姿に、温かい拍手をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

◎早寝・早起き・朝ごはん月間について

十月は大田区をあげての早寝・早起き・朝ごはん月間です。ご家庭の協力が必要です。よろしくお願いいたします。

十月の生活目標

友達を大切にしよう

生活指導部

『ドラえもん』のジャイアンの言葉「お前のモノは俺のモノ、俺のモノは俺のモノ。」誰もが聞いたことのある言葉かと思います。強引に相手の物を奪い取ったことが想像されますが、こんな話を聞きました。

のび太はランドセルを紛失してしまい、ジャイアンが「俺に任せろ！」と危険な目に遭いながら見つけてくれます。「ジャイアン、ありがとう。」というのび太に「当たり前だろ。だってお前のモノは俺のモノ：。」お前が無くしても俺のモノだと思って探す、お前の痛みも俺のモノ。そんな意味の言葉だと聞きました。

今月の目標は「友達を大切にしよう」。一人一人がこのジャイアンのように思いやりをもって接していけるといいですね。

『なかよし班活動』

特別活動部

学校では、国語、算数などの教科の学習のほかに、特別活動の領域が設けられています。これは、集団活動を通して子どもたちの個性を伸ばし、集団の一員として自主的、実践的な態度を養うことを主な目標としています。特別活動の中の、なかよし班の活動では『異年齢交流を通して、「社会性の基礎となる部分」の「人と関わりたい」という意欲を育み、「人と関わる喜び」を自ら獲得できるようにする。』ことを目標に活動しています。

六年生が中心となり、リーダー会で打ち合わせをし、活動計画を立てて実施しています。六年生の一生懸命な姿に、とても成長を感じます。本年度も、全校での校外学習として多摩川へのなかよし班校外学習を予定しています。遊びや班での活動を通して、人と関わる楽しさを学んでほしいと思います。これからも子ども達がこれらの活動の中で異年齢のふれ合いや関わり合いを大切にしていけるよう見守っていきます。